

令和元年度



## 2月 右田中学校だより

防府市立右田中学校

TEL 22-0984

## 第2学年「立志式」を挙行

全校生徒数401名

2月15日（土）、第2学年の立志式を実施しました。これは、数え年15歳で成人するという元服式に習い、大人への自覚を深める行事です。

今年は、2年生全員が、立志の決意の言葉を用紙1枚にまとめ、一人ひとりステージで、その言葉に込めた思いを発表しました。最後に学年合唱で「時を越えて」を披露しました。「精一杯の汗と涙、流した数だけ、きっと君が生きていく強さに、変わるときが来るから」の歌詞通り、羽ばたく2年生の決意がこもった立志式になりました。また、多くの保護者の皆様や学校運営協議会委員の皆さんにもご来場いただきました。ありがとうございました。



## 第1学年「ワークフォーラム」を開催

2月13日（木）、1年生対象のワークフォーラムを開催しました。1年生は、自分が興味をもっている職業について調べ、ポスターにまとめて廊下に掲示し、お互いに読み合ってきました。このフォーラムでは、実際に仕事に携わる人々から、就職の動機、仕事の喜びや苦労話などをお聞きすることができました。

生徒が進行役を務め、素朴な質問にも講師の方から丁寧に答えていただき、和やかに会が進みました。飲食業の講座では、魚の素人だった講師の方が、寿司職人として成長していった様子について、お話しいただきました。今回来校された講師は、次の10業種の方々です。IT関係、小売業、看護師、メディア関係、保育士、美容師、調理師、建築関係、自動車関係、市役所職員



## 道徳校内研修会の開催

2月21日（金）、道徳校内研修会を開催し、1年3組で本校の末富令子教諭が公開授業を行いました。授業では、主人公の中学生がボランティアとしてどんど焼きに参加し、地元の人々と作り上げた「さいの神」が燃え上がる瞬間に感じた感動を取り上げました。そして、「潤一の中にわき上がってきた感動の中にある思いについて考えよう。」と問いかけ、生徒一人ひとりがミニボードに自分の意見を書いて、黒板に貼り出し、交流しました。今年度から、中学校でも道徳が教科化されたことから、市内の小中学校から多くの先生方にご来校いただき、授業後は、充実した研究協議が行われました。心の教育の充実を通して、いじめの根絶はもとより、生徒のよりよい生き方の模索や人間関係づくり、社会参画につながることを期待しています。



## 音楽授業で日本伝統楽器「箏（そう・こと）」を演奏

1月27・28日、1年生が日本の伝統楽器である「箏」の演奏を体験しました。市内の箏演奏サークル「萌えぎ会」から10名の方が来校され、生徒一人に一面の箏をお貸しいただき、琴を実際に演奏することができました。今回初めて箏に触った生徒たちでしたが、2日間の授業の最後には、全員で「さくら」を演奏しました。日頃めったに体験することのできない、みやびな時間を過ごすことができました。



## 令和元年度右田中学校学校評価

今年度の本校学校評価について、2月15日開催の学校運営協議会において学校関係者評価を受けましたので、概要をお知らせします。

### 【学習指導】評価【 B よい 】

- ・めあての明示、振り返りの実施などを通して、教員の「アクティブ・ラーニング」導入の意識が高まっている。
- ・「アクティブ・ラーニング」を、グループ学習やICT機器使用と解釈し矮小化しがちであり、質の高い教材の提示、精選された発問などにも力を入れてほしい。授業改善には、指導案作成や検討も大切である。

### 【生徒指導】評価【 A たいへんよい 】

- ・学校行事に自主的に取り組むことで、企画力、コミュニケーション能力が向上できていると思う。
- ・生徒が日々の学校においての問題を見つけ、課題として自分たちの手で解決することができるように、支援してほしい。

### 【心の教育】評価【 B よい 】

- ・研究指定は大変なところもあるが、全教職員が同方向のベクトルで進むことが可能で、生徒の心の教育には大変良い。
- ・個の意見発表を聞くに終わらず、議論の時間をしっかり取ってほしい。また、体験の中から考えてほしい。評価方法等について意思統一を願う。

### 【校内研修】評価【 A たいへんよい 】

- ・中学校の教科担任制では、研修の同一歩調が難しいとは思いますが、「伝えあう力」に焦点を絞って学校全体でさらに進んでほしい。
- ・他教科の授業評価を的確に行うことができるよう、互いに研鑽してほしい。

### 【地域連携】評価【 B よい 】

- ・小中連携や地域連携の組織づくりが進んだことは、大きな成果として評価できる。
- ・地域行事に生徒が参加する際、活動内容の依頼だけで、趣旨が十分生徒まで伝わっていない事が懸念される。

### 【次年度への具体的な改善策】

- ・「伝え合う活動」を取り入れた授業改善を進め、深い学びや確かな学力につながるよう工夫する。
- ・学力向上対策として、家庭学習による定着や勉強会による補習等について工夫する。
- ・各行事において、一層生徒の主体性を大切にして企画し運営する。
- ・生活規律の向上に向け、生徒会活動の活性化により生徒の自主的取組を推進する。
- ・道徳授業と体験活動の充実や、適切な人間関係づくりの取組を通して、いじめのない学校づくりを進める。
- ・学校運営協議会や右玉子ネットへの教職員の積極的参加を促すと共に、行事精選や業務負担の平準化を図る。

## 立志式校長式辞（抜粋）

今日は、まっすぐに空に伸びていく、竹のお話をしましょう。竹の子どもであるタケノコは、春先に地表に顔を出し、ものすごいパワーと勢いで急成長します。アスファルトやトタンを突き破って生えてきます。1日に120センチ伸びたという記録もあります。そして、6月には、もう親竹と同じ高さの若竹になります。どうして竹は、こんなにも成長が早いのでしょうか。それには2つの理由があるそうです。一つ目は竹の体のつくりです。普通、植物は、芽の一番先が伸びて大きくなります。一方、竹は、平均で約60の節があって、それぞれの節が一斉に伸びて、成長します。また、竹の中は空洞になっていて、一見弱そうに見えます。けれども、軽い上に、節があるおかげで弾力があり、風にも、雨にも、雪にも耐えることができるのです。第二は、栄養の面からです。タケノコは、地下に張り巡らされた無数の地下茎から、栄養をたっぷり吸い取ります。それに加えて、まわりに生えている親竹たちが、自分の成長を早く止め、光合成でつくった栄養の全てを、タケノコのために捧げているのです。さて、私たちは、竹の姿から何を読み取ったらいいでしょうか。まず、成長には節が欠かせないということです。今日の立志式を人生の節目とし、夢の実現へのチャンスにしてほしいと思います。加えて、竹も私たちも、まわりからは見えないけれど、栄養を送ってくれる両親や多くの人に支えられているということをお忘れではありません。皆さんも、青竹のように、しなやかな強さを身につけ、ぐんぐん伸びていってほしいと思います。

※右田中学校のホームページにもアクセスしてください。

右田中学校

検索

<http://www.c-able.ne.jp/~hofumigi/>